

バンドン工科大学整備事業(1)



本事業により新築された校舎（5号館）

借款概要

承諾額/実行額	1,609百万円/1,580百万円
借款契約調印	1992年10月
借款契約条件	金利2.6%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1997年11月

事業概要

教育研究における内部効率（卒業率）の改善及び新設予定学科の開設、また既往学科に対する資機材整備を通じて、技術教育・技術開発の拠点として同国で指導的役割を果たしている本大学を整備拡充するもの。

評価結果

本事業により、新設学科の生徒数は増加傾向にあり、新学問分野へのニーズに応えたものとなっている。1991年において10%台前半だった既往学部の卒業率（卒業生徒数÷在籍生徒数×100）は、1999年において13～22%の範囲で向上した。平均修業年数は、規定年限には及ばないものの、短縮傾向にある。以上により、本事業は高等教育の拡充に貢献しているといえる。一方、教員一人当り生徒数は、既往3学部で10～13人であり、2002年の目標値8.4人の達成は難しい。高度な教育を受けたい学生の増加と教える人材側の量的ギャップがあり、教える側の増強が望まれる。教職員・学生へのアンケートでは、8割以上が本事業は教育効率及び学術水準の向上に貢献したと答えている。

優秀な人材の獲得・輩出を継続するためには、施設の拡充・適切な維持管理が必要であり、政府から十分な予算配分が望まれる一方、調査受託等の外部資金導入や民間連携による財政的な自立を担保する方策についても考える必要がある。